

2003年9月1日

東京三菱銀行
調査室

調査月報・解説/2003年9月：実用段階を迎えた有機ELディスプレイ

要約文

- (1)有機ELの量産計画が相次いで打ち出されている。これは、最近になって、量産化に向けた技術面でのボトルネックが概ね解消したことによる。
- (2)今後、有機ELは、メーカー各社による量産化が進むにつれて、当面は、携帯電話向けをはじめとした小型ディスプレイ(10型以下)から、長期的には、高級薄型テレビ向けなど中大型ディスプレイ(10~40型)でも採用が進むといった形で、薄型ディスプレイ市場で着実に存在感を高める可能性が高い。
- (3)こうした状況下、有機ELを本格的に量産するメーカーとなると、当面は部材の開発・量産化で先行したわが国メーカーにほぼ限られそうだが、中長期的には、海外勢も、技術及びコストの両面でキャッチアップしてくると予想され、わが国メーカーの有力なライバルとして台頭してくる虞が強そうだ。